

ご協力いただく「これからの1000年を紡ぐ企業認定※」認定企業

※京都市と公益財団法人京都高度技術研究所 (ASTEM) が、社会的課題をビジネスで解決したり、社会的課題を生まない新しい商品やサービス、あるいはシステムを生み出そうとする、ソーシャルイノベーションに取り組む企業を認定し、企業の目指す未来に向けた成長と発展をサポートする制度です。



Dari K 株式会社

途上国のカカオ豆農家を指導し付加価値と所得の向上と共に、高品質カカオ豆の輸入、チョコレートの製造・販売を展開



IKEUCHI ORGANIC 株式会社

最大限の安全と最小限の環境負荷を常に見据える、トータルオーガニックテキスタイルカンパニー



株式会社坂ノ途中

環境負荷の小さな農業に挑戦する新規就農者や若手農家と提携し、農産物の販売を行う野菜提案企業



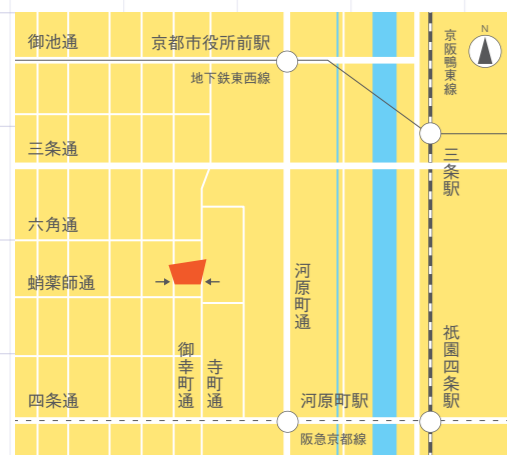
有限会社シサム工房

5か国12のNGOと提携し、フェアトレードの仕組みでファッションアイテムやインテリア雑貨の商品開発と販売を展開

これからの1000年を紡ぐ企業認定



会場アクセス

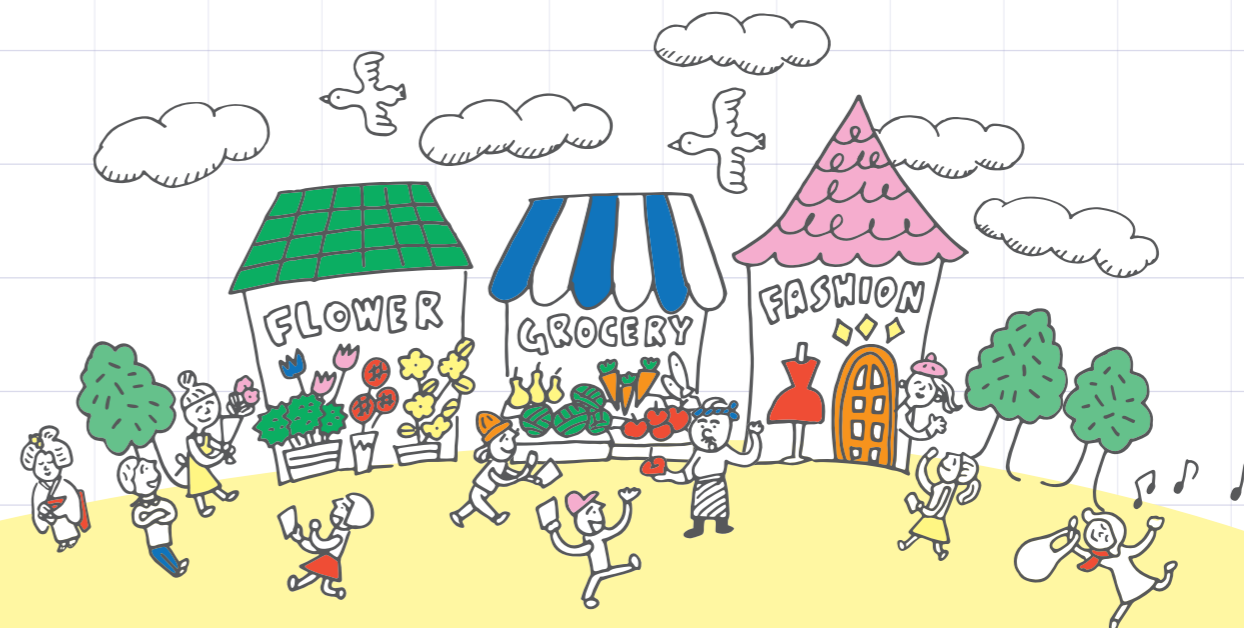
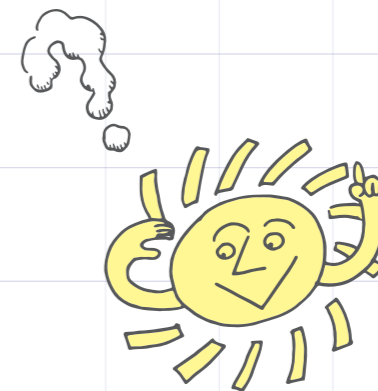


会場 mumokuteki cafe&foods 京都店 3F
中京区式部町261

市営地下鉄「京都市役所前駅」より徒歩 10 分
阪急「河原町駅」より徒歩 10 分
京阪「祇園四条駅」より徒歩 15 分
※会場にお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

【個人情報の取扱いについて】1. 個人情報の利用目的 ご記入いただきました個人情報は当財団で管理させていただき、本事業の運営にかかわる資料の作成、ご連絡、及び今後当財団が主催、共催または後援する催事のご案内に利用させていただきます。2. 個人情報の提供について 法令に基づく場合を除き第三者に貴殿の個人情報を提供することはありません。3. 個人情報の委託について 第三者に貴殿の個人情報を委託することはありません。4. 通知、開示、訂正、利用停止、削除をご希望の場合ご提供いただきました個人情報に関して、利用目的の通知、開示、訂正、利用停止、削除を希望される場合には、ご利用者本人の要求であることを確認したうえで、所定の手続きにより、合理的な期間および範囲で通知、開示、訂正、利用停止、削除を行います。以下の問い合わせ先へご連絡ください。【問い合わせ先】〈事業者の名称〉公益財団法人京都高度技術研究所〈個人情報保護管理者〉総務部長〈窓口〉総務部所在：京都市下京区中堂寺南町134番地 TEL:075-315-3625(代) FAX:075-315-3614 ※電話は平日(月・金※祝祭日を除く)9:00-17:00まで。5. 注意事項 ご記入いただく項目に不足がある場合は、本事業への参加をお断りする場合があります。※財団の個人情報保護方針の詳細は、http://www.astem.or.jp/privacypolicy でご確認ください。

お気に入りの洋服やいつも食べている野菜がわたしたちの手元に届くまでにはたくさんの人の想いが詰まっています。「素材から学ぶくらしの学校」の教室は京都の街中にある実際のお店。商品のつくり手とともに、商品の後ろ側にあるいくつかの物語を学ぶ、くらしの学校です。



11 がつ / 24 にち / 土ようび

受付 9:00- 開校式 9:30-9:50

(対象 / 小学1-3年生)

10:00-12:30

家庭科 チョコレートで地球をめぐる

13:30-16:00

国語 綿からタオルができるまで

(対象 / 小学4-6年生)

10:00-12:30

理科 土から“おいしい”を考えよう

13:30-16:00

社会 ニュースの向こう側

閉校式 16:15-16:30

参加費：無料(予約制・先着順)

定員：各回 25名

申込はホームページから



SILK 京都

※申込、イベント詳細は、ホームページをご確認ください
問い合わせTEL:075-366-5527

会場 mumokuteki cafe&foods 京都店 3F
中京区式部町261

素材から学ぶくらしの学校

MAKING OUR MARKET 2018 A/W

※会場には見学スペースを用意しています。保護者の方の同伴をお願いします。
 ※1教科のみの参加も可能です。
 ※開校式・閉校式はその時間にお越しいただいた方を対象に行います。
 ※創作、体をつかったワークを行います。汚れてもかまわない、動きやすい服装でお越しください。

11 がつ / 24 にち / 土ようび

開校式 9:30-9:50 3F mumokuteki ホール

おおもと くみこ
 大本 久美子先生 (大阪教育大学教育学部教授)

対象 小学 1-3 年生

場所 3F mumokuteki ホール



家庭科 チョコレートで地球をめぐる

10:00-12:30

カカオ豆はどんな国で育ち、どうやって日本にやってきたのでしょうか? チョコレートをつくりながら、みんなでカカオ豆と旅をしているような気持ちで考えてみましょう。

協力: Dari K 株式会社



講師



まえだ ゆか
 前田 結香 (フードコミュニケーター)

奈良県生まれ奈良育ち。ウェディング業界でサービス業に目覚め Walt Disney World へ渡米。食物アレルギー対応を目的とし、帰国後ローフードマイスターの資格を取得。子どもを産む前からの身体づくりワークショップや親子向けの食育ワークショップを開催し、生活の中に無理なく取り入れられるよう活動中。その他、接客業の経験を活かし飲食店のサービス開発やイベント企画を手掛けたり、地域性を活かした Local Wedding をコーディネートしたり特産品を使って商品開発をしている。



国語 綿からタオルができるまで

13:30-16:00

毎日使っているタオルは、コットン(綿)から生まれています。コットンを育て、収穫し、糸を紡ぎ、タオルにしていくまでのお話を聞き、体を動かしながら物語をつくります。

協力: IKEUCHI ORGANIC 株式会社

講師



やまくち けいこ
 山口 恵子 (俳優・演出)

高校卒業後、イギリス・ロンドンでパフォーマンス/演劇を学ぶ。帰国後、俳優として京都を拠点に活動、松田正隆や松本雄吉の作品に数多く出演。国内外の国際共同制作にも数多く関わっている。2011年頃より「BRDG」を立ち上げ、自身の作品製作も始める。リサーチやインタビューをもとに作品をつくる創作スタイルをとっており、現在は「京都のローカルな国際性」をテーマに、海外ルーツをもつ子どもたちのリサーチを行っている。2017年国際交流基金アジアフェローとしてフィリピンへ。2018年には国際交流基金アジアセンター市民交流助成を受託。

対象 小学 4-6 年生

場所 3F mumokuteki ホール



理科 土から“おいしい”を考えよう

10:00-12:30

どんな土だと、野菜はおいしく育つだろう? 土と野菜の成長の様子を観察し、想像してみよう。仮説を立てたら、みんなと絵を描いたり、触ってみたり、いろんな方法で秘密を探ります。

協力: 株式会社坂ノ途中



講師



こばやし まい
 小林 舞 (総合地球環境学研究所 プロジェクト研究員)

米国のスミス大学卒業後、カリフォルニア州や中米のニカラグアで、環境教育や農業に携わり、アグロフォレストリーやパーマカルチャーを学ぶ。京都大学地球環境学舎にて修士・博士課程修了。2016年より京都にある総合地球環境学研究所にて、「持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築—食農体系の転換に向けて」(FEAST) というプロジェクトの研究員として働いている。未来における小規模農業の可能性や豊かな食文化のあり方などを日本とブータンをフィールドに日々探求している。

社会 ニュースの向こう側

13:30-16:00

普段、自分が着ている服や口にしている食べものは、どうやってここまで辿りついたんだろう。今回は、ニュース番組をみんなでつくるなかで、生産者の人たちの想いを知り、運ばれてきた仕組みについて学びます。

協力: 有限会社シサム工房



講師



はまさき さとし
 浜崎 聡 (俳優・ドラマティーチャー)

岡山大学卒業後、京都・大阪を中心に俳優として活動開始。2015年文部科学省所管財団法人生涯学習開発財団認定ワークショップデザイナー資格取得。文化庁事業「文化芸術による子供の育成事業」参画。児童生徒や社会人向けに、演劇を使ったコミュニケーション能力向上のワークショップを実践。

閉校式 16:15-16:30 3F mumokuteki ホール

きした らんこ
 岸田 蘭子先生 (全国小学校家庭科教育研究会副会長 / 京都市高倉小学校長)

プログラム開発協力

総合地球環境学研究所 FEAST プロジェクト (持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築—食農体系の転換にむけて)
 持続可能な地球社会の基盤を支える食と農の新たなあり方を展開することをめざし、データの収集や分析、新たな施策の実現のための実践的な研究を、日本、タイ、ブータン、中国で行っている。食と農の未来を考える委員会の設立や、食と環境を結ぶ新しい具体的な手段の開発を進めている。

NPO 法人子どもとアーティストの出会い

2004年より任意団体として活動開始し、2008年8月 NPO 法人格を取得。芸術文化(アート)が多様な価値を創造し、感性を豊かにする存在であるという認識のもと、学校、地域の諸団体、NPO、行政、企業と協働し、子どもたちがアーティストとともに創造的な活動を行う機会を創出している。

ワークショップの様子(昨年度) photo by SAYAKA MOCHIZUKI